

メキシコにおける「JF にほんご eラーニング みなと」 普及への取り組みと成果

鵜飼香奈子

1. はじめに

海外の日本語教育事情を考えると、地理的・時間的な制約から教育機関での日本語学習を開始、継続することが難しい学習者も少なくない。また近年では日本語学習を始めるきっかけや目的も多岐にわたっており、学習者のニーズも多様化している。そのような日本語学習者に学びの機会を提供するため、国際交流基金関西国際センター（以下、「関西国際センター」）は日本語学習のためのプラットフォーム「JF にほんご eラーニング みなと」（以下、「みなと」）(<https://minato-jf.jp>)を開発し、2016年7月より運営している。「みなと」は学習管理システム(LMS)を備えた日本語学習プラットフォームであり、インターネット環境や機器さえあれば、ユーザー登録をすることで日本語学習が始められる。また学習者がそれぞれ自分に合った日本語オンラインコースを自由に受講できることを目指している（信岡ほか 2017）。「みなと」のメインコースとなっているのが日本のことばと文化を総合的に学ぶ「まるごと日本語オンラインコース」である（千葉ほか 2018）。本コースは国際交流基金が開発したコースブック『まるごと 日本のことばと文化 かつどう』、及び『同 りかい』のカリキュラムとシラバス、素材を基に作成された。コースタイプは2種類あり、いつでも受講が開始でき、自分のペースで学ぶことができる「自習コース」と教師によるサポートが付きスケジュールに沿って学びを進める定員制の「教師サポート付きコース」である。

メキシコでは、これまで教育機関に所属するメキシコ人日本語学習者の学習スタイル（江原 1998）、学習ビリーフ（高崎 2014）、動機づけ（佐藤 2019）に関する調査は行われてきたが、オンライン学習者に関する調査は見当たらない。しかし、国際交流基金メキシコ日本文化センター（以下、JF メキシコ）ではメキシコにもオンライン日本語学習者、潜在的日本語学習希望者が多く存在していると推測し、「みなと」の広報・普及に努め、2017年9月から「まるごと教師サポート付きコース」を開講してきた。

筆者は2018年9月から2020年9月までの2年間、メキシコにおける「みなと」の普及・活用事業に従事してきた。本稿の目的は、メキシコにおける「みなと」普及への取り組みと成果について報告することである。

2. メキシコの日本語教育事情

国際交流基金の「2018年度海外日本語教育機関調査」（以下、「機関調査」）によると、メキシコの学習者数は13,673人と世界142の国や地域の中で20位である。前回調査（2015年）と比較すると、機関数は68から120で76.5%増、教師数は322人から483人で50.0%増、学習者数は9,240人から13,673人で48.0%増となっており、いずれにおいても大幅な増加が見られ、調査開始以来最大となっている。さらに学習者を教育段階別にみると、民間語学学校や大学付属言語センター等の学校教育機関以外で学ぶ学習者の占める割合が最も高く、全体の6割に上り、前回調査比で94.1%増、4,209人から8,170人となっている。日本語学習の目的・理由では「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」、「日本への留学」がそれぞれ86.7%と最も多かった。3番目には「日本語そのものへの興味」が83.3%、4番目には「歴史・文学・芸術等への関心」が75.0%と続いた。

学習者が増えた理由として、メキシコへの日系自動車産業進出の影響により日本への関心が高まっていることに加え、学んだ日本語を実際に通訳や翻訳の仕事で活かせる機会が増えていることが考えられる。2005年の日墨経済連携協定発効、続く2012年改正議定書発効を機に日系企業の進出が相次ぎ、特にバヒオ地区（メキシコ中央高原地域）への自動車関連企業の進出は目覚ましい。外務省の海外在留邦人数調査統計によるとメキシコの日系企業数は2011年が464社、2018年が1,209社と約2.6倍となり、2016年には当該地区を管轄する在レオン日本国総領事館が開設された。実際、メキシコの地域別・教育機関種別日本語学習者数をみると同地域に該当する州（グアナファト州、ケレタロ州、アグアスカリエンテス州、ハリスコ州）で多くの新しい機関が確認されている⁽¹⁾。このように日本語学習の目的・理由や動機は多岐にわたることが窺える。

メキシコの国土面積は日本の約5倍であるが、交通網が未整備な地域も多く、日本語教育機関に通うことのできない潜在的日本語学習希望者も相当数いるものと推察される。そのような状況に鑑み、JFメキシコでは「みなと」の広報・普及に努めてきた。その結果、2020年7月、メキシコの「みなと」登録者数は32,429人（表1）となり、現在も登録者数の増加は続いている。「機関調査」において学習者数が世界20位（表2）であるメキシコが、「みなと」登録者数においては世界1位であることは特筆に値する。

表1 「みなと」登録者数上位10カ国
(2020年7月現在)

1位	メキシコ	32,429人
2位	インドネシア	19,118人
3位	マレーシア	9,845人
4位	アメリカ合衆国	9,046人
5位	フィリピン	8,054人
6位	ベトナム	7,554人
7位	タイ	7,522人
8位	日本	5,591人
9位	スペイン	4,934人
10位	ブラジル	4,753人

表2 学習者数上位10カ国とメキシコ
(2018年度機関調査)

1位	中国	1,004,625人
2位	インドネシア	706,603人
3位	韓国	531,511人
4位	オーストラリア	405,175人
5位	タイ	184,962人
6位	ベトナム	174,461人
7位	台湾	170,159人
8位	アメリカ	166,565人
9位	フィリピン	51,892人
10位	マレーシア	39,247人
20位	メキシコ	13,673人

3. JF メキシコの取り組み

本章では、これまでJF メキシコが行ってきた「みなと」普及への取り組みとして、①「みなと」広報活動、②「まるごと教師サポート付きコース」の運営、③スペイン語による解説付きコース拡充について述べる。

3.1 「みなと」広報活動

JF メキシコではオフライン広報とオンライン広報^②の両方を利用し、積極的な広報活動を行った。それぞれの具体策は以下の通りである。

(1) オフライン広報

- ・「みなと」スペイン語版チラシ作成 (図1)
- ・教師研修会や日本文化イベント、講演等での「みなと」紹介、及びチラシ配布
- ・マスメディアでの「みなと」紹介^③
- ・在メキシコ日本国大使館 (以下、大使館) にチラシを提供し、来館者への配布依頼
- ・JF メキシコ全職員および日本語専門家の名刺に「みなと」バナーやQRコードを掲載

(2) オンライン広報

- ・「みなと」紹介動画・ポスターの作成、JF メキシコの Facebook ページ上で公開
- ・JF メキシコより大使館へ大使館 Facebook ページ上での情報共有依頼^④



図1 「みなと」チラシ

続いて、上記取り組みの行い方について詳述する。なお、「みなと」広報において特に効果が大きかったと思われるオンライン広報について、より紙幅を割いて説明する。

3.1.1 オフライン広報

メキシコにおいてスペイン語での情報提供は重要である。そこで国際交流基金全拠点が利用できる、英語版の「みなと」チラシを参考に、JF メキシコでオリジナルのスペイン語版「みなと」チラシ（以下、チラシ）を作成した。チラシの配布は日本語教師研修、機関訪問、日本文化イベント等で JF メキシコの全職員および日本語専門家らが行った。大使館にもチラシを置き、来館者へ配布してもらうよう依頼した。

またメキシコの教育テレビ番組で JF メキシコの日本語教育事業が特集された際には、職員が出演し「みなと」について詳しく紹介した。筆者は職員の出演前に打ち合わせを行い、強調する点は「インターネットとデバイスがあれば、いつでも、どこでも日本語学習ができる」であることを確認した。またメディアから事前に質問事項がある場合は回答を作成した。

さらに、JF メキシコ全職員および日本語専門家の名刺には「みなと」のバナーや QR コードを印刷し JF メキシコ一丸となって「みなと」の周知に努めた。

3.1.2 オンライン広報

オンライン広報については主に JF メキシコが運営する Facebook ページ「Fundación Japón en México 国際交流基金メキシコ日本文化センター」(URL : <https://www.facebook.com/fjmex1>) を活用した。オンライン広報を Facebook で行った理由は、筆者が JF メキシコ着任時、既に JF メキシコのオンライン広報の主媒体として Facebook ページが利用されていたためである。本ページは JF メキシコ全事業の広報媒体であり、文化イベント告知や図書館利用案内など投稿内容は多岐にわたる。Facebook ページの運営は主に文化事業の職員が担当しており、「みなと」の広報に力を入れるにあたり、文化事業の職員、日本語事業の職員、筆者で話し合い広報の方向性を決定した。そこで「みなと」に関する広報企画、素材の作成は主に筆者が行い、Facebook への投稿、メール・電話での対応、外部機関や大使館への情報共有依頼は職員2人（メキシコ人、日本人）が担当することとした。

次に Facebook ページで「みなと」を広報する際に工夫した3点について述べる。

第一に、「みなと」を紹介する際には「スペイン語」、そして「無料」で日本語が学べる点を強調したことである。様々な日本語オンライン教材が開発されており、英語で日本語を学べるオンライン教材はあるが、スペイン語で日本語を学べるものはまだ少なく、メキシコの潜在的日本語学習希望者にとり、解説言語がスペイン語であるということが重要であると推察されたためである。実際、JF メキシコの Facebook ページで「みなと」紹介の投稿をすると、コメン

ト欄では「サイトでは英語だけではなくスペイン語が使えるのか」、「スペイン語で説明が書いてあるのか」という質問が多くあった。

第二に、登録希望者へのフォローアップを徹底した点である。「みなと」登録希望者からの問い合わせでは、登録が上手くできないという声が多く寄せられた。「みなと」に登録ができないから、日本語学習が始められないという事態を避けるために、登録方法の手順を説明する動画 (URL : <https://www.facebook.com/fjmex1/videos/822737881451340>) を作成し、公開した。動画は、「みなと」に興味のあるメキシコ人が日本人の友達に登録方法を教えてもらう設定とした。登録希望者は2人の会話を聞きながら、実際にパソコン画面で情報を入力する過程を見ることで、記入する際のポイントが分かりやすいのではないかと考えた。動画では、申込フォームへ情報を記入する際にアクセント記号を使わない等、特にスペイン語使用者が気を付けなければならない点分かるように配慮した。動画作成は、筆者がパソコン画面の録画と編集を行い、JF メキシコの職員2人が音声録音を行った。新しいコースの情報提供を行う際には、本動画のリンクを必ず貼るようにした。また、登録方法が分からないという電話やメール、Facebook のメッセージやコメント欄にて質問が来た場合には、本動画を紹介した⁶⁾。

第三に、広報を投稿するタイミングを見極めた点である。例えば「みなと」のプラットフォーム自体の広報は、クリスマスや聖週間前など、メキシコ人が長期休暇に入る前に行った。学校や仕事が休みとなり自由時間が増え、日本語学習の時間が確保できるのではないかと考えたためである。一方、JF メキシコが実施する教師サポート付きコースを広報する際に気を付けたのは、コース受付開始日の1週間前より、「日本語コースに関して新しい発表がある」と事前に投稿した点である。情報を小出しにし期待感を持たせることで、コース詳細の投稿にアクセスしてもらうよう工夫した。Facebook では様々な新しい情報が次々と更新されており、タイミングが合わなければ投稿が見られない可能性がある。このようにコースに関し少しずつ情報を開示することで注意を引きつつ、コース詳細に関する投稿へ誘導し、アクセス数の増加を狙った。教師サポート付きコースの詳細は次項で述べる。

3.2 「まるごと教師サポート付きコース」の運営

3.2.1 コース概要

JF メキシコは「まるごと教師サポート付きコース」を2017年9月から2020年6月末までに18コース開講した。コースのカリキュラム、教師サポートの内容については関西国際センターを参考とした⁶⁾。表3が示すように、開講コースの内訳はA1-1が8コース、A1-2が6コース、A2-1が3コース、A2-3が1コースである。A1-1、A1-2レベルを多く開講した理由は、入門レベルのコースを多く設けることで、潜在的日本語学習希望者に日本語学習を始める機会を提供し、メキシコにおけるオンライン日本語学習者の裾野を広げるためであった。コース別の応募者数を

みると、2019年5月～8月 A1-1が1,056人、2020年2月～5月 A1-1が1,412人と大幅に増加している。

表3 JF メキシコで開講した「まるごと教師サポート付きコース」一覧

年度	受講期間	コース	応募者数	受講者数	コース数
2017年度	2017年9月～12月	A1-1	358	10	1
	2018年1月～4月	A1-1	202	35	2
A1-2		13			
2018年度	2018年5月～8月	A1-1	213	30	3
		A1-2		15	
		A2-1		10	
	2018年9月～12月	A1-1	124 ⁽⁷⁾	30	2
		A1-2		13	
	2019年1月～4月	A1-1	221	30	2
A1-2		52	15		
2019年度	2019年5月～8月	A1-1	1,056	30	3
		A1-2	79	10	
		A2-1	32	11	
	2019年9月～12月	A1-1	651	20	2
		A1-2	86	10	
	2020年2月～5月	A1-1	1,412	23	3
A2-1		81	10		
A2-3		64	10		
合計			4,631	325	18

3.2.2 「みなと」における日本語学習目的の調査

第1章で述べたように、これまでオンラインにおけるメキシコ人日本語学習者の学習目的や動機づけに関する調査は行われていない。JF メキシコが2017年に「まるごと教師サポート付きコース」を開講して以降、メキシコの登録者数も増え、今後JF メキシコにおける教師サポート付きコース新規開講やオリジナルコース開発のための参考データとし、学習者のニーズを把握することが急務と考え、アンケート調査を実施した。アンケートは全てスペイン語で行った。

(1) アンケート調査概要

調査期間 2018年12月17日～2019年1月2日

調査対象 調査期間中に「まるごと教師サポート付きコース」A1-1、A1-2に応募したメキシコ国内在住者（273人）

調査手段 「みなと」を利用したオンラインアンケート⁽⁸⁾

調査項目 教育機関での日本語学習歴の有無、日本語学習の目的⁽⁹⁾（複数回答可）

日本語学習の目的・理由として17項目の選択肢を挙げた。回答者は選択肢から、自身の日本

学習の目的・理由としてあてはまるものを選ぶこととした。

(2) 調査結果

教育機関での日本語学習歴の有無に関し、「教育機関での日本語学習の経験がない」が170人(62.3%)、「教育機関での日本語学習の経験がある」が103人(37.7%)であった。日本語学習の目的について回答数の多かった順に並べたものが表4である。パーセンテージは全回答者273人中、該当選択肢を選んだ回答者数の占める割合である。

表4 日本語学習の目的

	アンケートにおける選択肢表記	回答数
1	日本の国際親善活動（親善活動での訪日や来訪日本人の受入等）をしたいから	96(35.2%)
2	歴史・文学・芸術等の日本の文化に興味があるから	71(26.0%)
2	日本語という言語そのものに興味があるから	71(26.0%)
4	日本に観光旅行をしたいから	68(24.9%)
5	日本に留学したいから	56(20.5%)
6	国際理解・異文化交流全般に幅広く興味があるから	52(19.1%)
7	仕事や学校、地域で日本語で会話をしたいから	46(16.9%)
8	将来の仕事・就職に役立てたいから	35(12.8%)
9	インターネットなどを通じて日本語で情報収集・コミュニケーションをしたいから	25(9.2%)
10	アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等の日本の文化に興味があるから	20(7.3%)
10	今の仕事で日本語を必要としている、もしくは役立てたいから	20(7.3%)
12	上記以外の目的	19(7.0%)
13	日本語を使って受験や資格取得をしたいから	14(5.1%)
14	日本の政治、経済、社会などに興味があるから	10(3.7%)
15	日本の科学・技術に興味があるから	9(3.3%)
16	母語、または家族・親戚の言語（継承語）だから	3(1.1%)
16	周囲の人（家族、親戚、知人など）に強く奨められたため	3(1.1%)

最も回答が多かったのは、「日本の国際親善活動（親善活動での訪日や来訪日本人の受入等）をしたいから」（以下、「日本の国際親善活動」）で96人（35.2%）であった。続いて、「歴史・文学・芸術等の日本の文化に興味があるから」と「日本語という言語そのものに興味があるから」がそれぞれ71人（26.0%）であった。本アンケートでは1位である「日本の国際親善活動」が2018年度機関調査では15位と、機関調査と本アンケート調査では大きな乖離が見られた。一方、2018年度機関調査では最も回答の多かった「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等の日本の文化に興味があるから」が本アンケートでは10位（7.3%）であった。

「みなと」では「アニメ・マンガの日本語 A1（あいさつ）教師サポート付きコース」も提供しているため、JF メキシコでも開講することも考えた。しかし、本アンケート調査の結果を考慮し、日本のことばと文化を総合的に学ぶ「まるごと教師サポート付きコース」を継続して開講することとした。

3.3 スペイン語による解説付きコース拡充

「みなと」では関西国際センター開発のオリジナルコース「ひらがな A1自習コース」、「カタカナ A1自習コース」⁽¹⁰⁾が開講されている（千葉・熊野 2018）。メキシコでは「みなと」が普及するにつれ、他コース開講の要望が多く聞かれるようになった。その為、2019年3月に関西国際センターへ「ひらがな A1自習コース」、「カタカナ A1自習コース」スペイン語版の開講を要請した。その結果、関西国際センターが2020年3月、「ひらがな A1自習コース」、「カタカナ A1自習コース」スペイン語版を開講した。本コース開講にあたり、JF メキシコからはスペイン語版連想イラストの素材提供と教材内の指示語翻訳の協力を行った。

また本稿執筆時の2020年8月、JF メキシコではオリジナルコース「初級からビジネス日本語 A2（Vol.1）教師サポート付きコース」開講に向け準備を進めている。オリジナルコース作成にビジネス日本語を選んだ理由として、メキシコの日本語教育事情を考慮した。また「まるごと教師サポート付きコース」応募者へのアンケート調査結果（表4）も参考とした。一番回答の多かった「日本文化や日本語への興味」には「まるごとオンラインコース」、次に回答の多かった「旅行の日本語」には「サバイバル・ジャパニーズ A1（旅行編）自習コース」⁽¹¹⁾が対応していると考え、JF メキシコではビジネス日本語コースを作成することとした。

4. 取り組みの成果に関する考察

本章では、JF メキシコ「みなと」普及への取り組みが成果につながったかどうかをデータを基に考察する。2020年7月、メキシコの「みなと」登録者数は32,429人（表1）と「みなと」登録者数においては世界1位であり、現在も登録者数の増加は続いている。

第一に、Facebook を活用した積極的な広報活動は「みなと」登録者の継続的な増加につながったと考えられる。

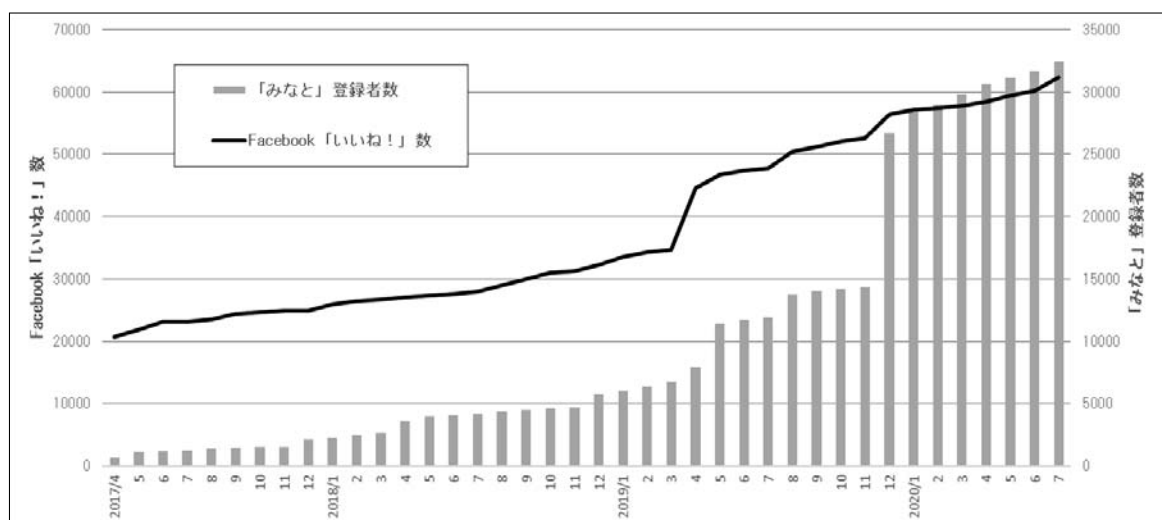


図2 「みなと」登録者数の推移と Facebook 「いいね！」数

図2は2017年4月から2020年7月までのメキシコの「みなと」登録者数とJFメキシコのFacebookページ「いいね！」数の推移を示したものである。「みなと」登録者数とJFメキシコのFacebookページ「いいね！」数が比例して増加していることが分かる。またJFメキシコのFacebookページフォロワー数も「いいね！」数⁽¹²⁾と同様に増加しており、2018年9月は29,639人であったが、2019年5月には47,419人、2020年8月には66,919人となっている。

「みなと」登録者数が増加したことに鑑みると、オンラインでの広報主媒体をFacebookとしたことは適当であったと言える。メキシコでは約8,900万人がFacebookを日常的に利用しており、ソーシャルメディアにおける利用者数は第1位である(Statista 2020a、Statista 2020b)。しかし適切な媒体を選んだからといって、潜在的日本語学習希望者へ問題なく情報が届くとは限らない。JFメキシコが、それまでFacebookページへ継続的に投稿を重ね、着実にフォロワーを増やしてきたことで、当ページの閲覧頻度を高めたと考えられる。だからこそ、より多くの人に、「みなと」に関する情報を閲覧してもらえ、他の情報に埋もれるのを避けられたのではないだろうか。

第二に、「まるごと教師サポート付きコース」の実施は、「みなと」登録者数の短期での飛躍的増加につながったと考えられる。「まるごと教師サポート付きコース」の広報を行った期間は、他の月と比べ「みなと」登録者数が急増した。表5を見ると2019年4月・5月の2か月間で4,720人増(1,235人+3,485人)、2019年12月・2020年1月の2か月間で14,364人増(12,367人+1,997人)と登録者数が急増していることが分かる。それと連動し「まるごと教師サポート付きコース」の応募者も増加しており(表3)、「まるごと教師サポート付きコース」への応募をきっかけとし、「みなと」へ新規登録を行った学習者も少なくないだろう。

表5 月毎の「みなと」新規登録者数

2018/4	5	6	7	8	9	10	11	12	2019/1	2	3
1,006	320	124	123	184	94	132	80	1,068	277	351	330
2019/4	5	6	7	8	9	10	11	12	2020/1	2	3
1,235	3,485	265	217	1,839	276	165	125	12,367	1,997	271	856
2020/4	5	6	7								
830	522	502	771								

第三に、これまでJFメキシコは大使館と定期的に情報や意見交換を行い、連携を図ってきた。「みなと」を広報するにあたり、Facebookページのフォロワー数がJFメキシコを遥かに超え、34万人以上を抱える大使館の協力を得られたことは重要である。特に2019年12月は急激な増加を見せており、その要因として大使館の広報協力とそれに伴うメキシコ国内メディアの宣伝が奏功したものと推測される⁽¹³⁾。それまでのJFメキシコ全事業の継続的な広報と、その

中での「みなと」の単発的なオンライン広報、また大使館の協力体制が相乗効果を生み、「みなと」登録者数の飛躍的増加につながったと考えられる。

第四に、スペイン語による解説付きコース拡充への取り組みと「みなと」登録者数の増加の関連性は明らかではない。しかしながら、表4をみると、日本語と文化を総合的に学べる「まると教師サポート付きコース」の応募者の中にも多様な学習のニーズが認められる。メキシコにおける潜在的日本語学習希望者全体のニーズを推測すると、そのニーズはより多岐にわたるであろう。そのような多様なニーズに応えるために、より多くのコースを提供することで、潜在的オンライン学習者が「みなと」で日本語学習を始めたのではないかと考えられる。スペイン語による解説付きコース拡充と「みなと」登録者数の増加の関連性については、今後の課題としたい。

以上の取り組みが複合的に絡み合いメキシコの「みなと」登録者数の増加につながったと考えられる。

5. まとめと今後の課題

本稿ではメキシコにおける「みなと」普及の取り組みとその成果について報告した。「まると教師サポート付きコース」を運営するなかで、メキシコでは地理的、時間的制約に加え、治安の問題も無視できないことが分かった。受講生によると、地域によっては教育機関があったとしても、夕方以降の外出が難しく、放課後や退勤後に教育機関へ通うことができない場合もある。また最近では新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけ、教育機関が閉鎖され、学びの場を失った学習者も少なくないだろう。「みなと」は、これらの複合的な制約により日本語学習を始める、または継続することが難しい学習者の受け皿となり、メキシコの日本語学習希望者に日本語学習の機会を提供したと言える。

本稿ではメキシコにおけるオンライン日本語学習の需要の高さが明らかとなったが、オンライン学習者の実態は、現在もなお不明である。今後、「みなと」の普及を行うだけでなく、オンライン学習における学習者支援について考えることも必要であろう。

インターネットの急速的普及とその技術の高度化、および情報機器の高性能・低価格化とともに、これまで様々なマルチメディア教材や学習ソフトウェアが開発されてきた。LMSを備えた日本語学習プラットフォームが開発され、Web会議サービスシステムを利用した遠隔での日本語授業が行われている。また昨今、新型コロナウイルス感染拡大をうけ、オンラインでの日本語学習者支援の必要性がこれまで以上に高まっている。その支援策を探るためにも、日本語学習者のニーズや学習スタイル、ビリーフ、動機づけについての各種調査を行い、オンライン学習者の実態を解明することが求められよう。

〔注〕

- (1) 調査人数の地方別・教育機関種別分布はJF メキシコによる教師数・学習者数・機関数の調査を基にした。
- (2) ここではインターネットを利用した広報をオンライン広報とし、それ以外をオフライン広報とする。
- (3) JF メキシコの文化芸術事業がテレビやラジオで取り上げられた際は日本文化と関連させ、日本語を学べる「みなと」の紹介を行った。
- (4) Facebook ページのフォロワー数は大使館が341,872人、JF メキシコが66,298人であり、JF メキシコのFacebook ページだけで広報するより、一層多くの人々に情報が届く可能性がある。
- (5) 動画「みなと」登録説明 (Cómo registrarse en línea Minato) の投稿のリーチ数は62,995、エンゲージメント数は26,447、コメント数は511、シェア数は878である (2020年8月22日現在)。
- (6) 「まるごと教師サポート付きコース」については千葉ほか (2018) に詳しい。
- (7) 2018年9月～12月開講コースまで応募者数が複数レベルの合算になっているのは、筆者が2019年1月から「みなと」業務の担当となり、それ以前のレベル別応募者数のデータは入手できなかったためである。
- (8) 応募者が「まるごと教師サポート付きコース」申込時に記入する応募申請フォームに、本アンケートの調査項目を組み込んだ。
- (9) 日本語学習の目的の項目は、国際交流基金「海外日本語教育機関調査」を参考とした。
- (10) 連想イラストなどの素材を活用し、練習問題やクイズでインタラクティブに文字を学ぶことができる自習コースである (千葉・熊野 2018)。
- (11) 国際交流基金マドリッド日本文化センター開講のコースで、解説言語はスペイン語である。
- (12) 「いいね！」数とは、一つの投稿を見た人が、その投稿に対し「いいね！」等の反応を示した数、「シェア」し共有した数、コメント数を合わせた数字である。一方、フォロワーとはFacebook ページをフォローする人であり、そのページが更新された場合に、投稿を読むことができる。フォロワー数とはその合計人数である。
- (13) 大使館の投稿がメキシコ主要紙『El Universal』の目に留まり、本紙オンライン新聞に掲載された。
<<https://www.eluniversal.com.mx/nacion/aprende-japones-en-linea-de-manera-gratuita>> その後、相次ぎテレビ番組『Venga la alegría』やラジオ局 HP 『W Radio』で取り上げられた。

〔参考文献〕

- 江原有輝子 (1998) 「日本人日本語教師とメキシコ人学習者の学習スタイルの違い」『日本語教育』96、13-24
外務省「海外在留邦人数調査統計」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/page22_003338.html> (2020年8月4日)
- 国際交流基金 (2017) 「海外日本語教育機関調査 (2015年度)」
<<https://www.jpfa.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>> (2020年8月4日)
- 国際交流基金 (2020) 「海外日本語教育機関調査 (2018年度)」
<<https://www.jpfa.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html>> (2020年8月4日)
- 佐藤梓 (2019) 「外国語学習環境における日本語学習者の動機づけ：メキシコの学習者を対象とした分析から」北海道大学国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻、博士論文
- 高崎三千代 (2014) 「メキシコにおける日本語学習者の特性—ベリーフ調査結果を中心に—」『国際交流基金日本語教育紀要』10、23-38
- 千葉朋美・武田素子・廣利正代・笠井陽介 (2018) 「「まるごと (A1) 教師サポート付きコース」の運用と成果—オンラインコースにおける学習者支援—」『国際交流基金日本語教育紀要』14、51-66
- 千葉朋美・熊野七絵 (2018) 「「JF にほんご e ラーニング みなと」における日本語オンラインコースの開発と運用—e ラーニングでの自学自習を継続するために—」『ヨーロッパ日本語教育』22、372-377
- 信岡麻理・和栗夏海・伊藤秀明・山下悠貴乃・川嶋恵子・三浦多佳史 (2017) 「「JF にほんご e ラーニング みなと」の構成と今後の展望」『国際交流基金日本語教育紀要』13、125-131
- Statista (2020a) *Leading countries based on Facebook audience size as of July 2020*
<<https://www.statista.com/statistics/268136/top-15-countries-based-on-number-of-facebook-us>>
(2020年8月20日)
- Statista (2020b) *Mexico: main social networks 2019, by usage reach*

メキシコにおける「JF にほんご e ラーニング みなと」普及への取り組みと成果

<<https://www.statista.com/statistics/449869/mexico-social-network-penetration/>>
(2020年8月20日)